

鳥類等生息状況調査結果（二上山鳥獣保護区）

1 名 称 二上山鳥獣保護区

2 指定区分 身近な鳥獣生息地

3 指定目的

この区域は、能登半島国定公園の南端部に位置し、コナラやウラジロガシ、スギ等が繁茂しているゆるやかな丘陵地帯となっており、県民の憩いの場として広く活用されているとともに、ツグミ、アトリ、カシラダカ等の渡り鳥の重要な経路に当たることから鳥獣保護区に指定されているが、この区域を特別保護地区に指定し、より積極的な鳥獣生息環境の保護を図る。また、この区域は市街地に近いことから、県民の探鳥の場として提供し、鳥獣保護思想の普及啓発を図るものである。

4 調査結果

(1) 鳥類（平成 31 年度春季）では

ミサゴ及びサンコウチョウといった準絶滅危惧種（レッドデータブックとやま 2012、ミサゴは環境省レッドリスト 2020 においても指定）や、ホトトギス、クロツグミ、カッコウなどの夏鳥を含め、23 種類の鳥類が確認された。

(2) 鳥類（平成 31 年度秋季）では

コサメビタキといった準絶滅危惧種（レッドデータブックとやま 2012）やジョウビタキのような冬鳥を含め、15 種の鳥類が確認された。

(3) 哺乳類（令和 3 年度）では

ニホンノウサギやキツネ、タヌキ、テン、イノシシ、ハクビシンの 6 種類が確認された。

以上のことから、自然環境は良好な状態で保存され、多種多様な鳥獣の生息に適した環境を有している地域である。